講　　演

「２１世紀農業」の担い手を支える農業高校の経営戦略について
～２１世紀農業は「脳業」、シンギュラリティが食料生産に与える影響～

ヒューマンサイエンス研究所
理 事 長　　小林　惠智　様

今まで私が１番考えてきたことは、貧困のない国や、地球をつくりたいということ。そのためには、子どもたちには早く自立してほしいと考えていました。先生方は農業や林業を教えているからおわかりだと思うが、１人で何でもできるようにならないとお店１軒の経営もできない。１から１０まですべて１人でできるようにと「ワンオペ」を目指してやってきたが、今では防犯上の理由で厚労省からも２人以上でやらないといけないといわれている。３人寄れば文殊の知恵という言葉もありますが、必ずしもそうはならない。１ 人でできることを２人でやろうとすると１人あたり０．７人分の力しか出さない。ここに問題があります。私はこどもの頃からこのことを感じていました。また、鎌倉の円覚寺で修行をしていた頃、同じ人間なのに立派に葬儀を挙げる人、山門にご遺体をおかれてしまう人、どうしてこんなに違うのだろうと思いました。ですから私たちが生きていく上で、頑張った人が頑張ったなりに報われなければいけない。そういう世の中でなければいけないという思いがあります。

また、私は母親の実家が農家で小さい頃から農業を見ていたこともあり、日々の生活の中で工夫と改善を重ねて収量を上げていく親の姿から、コツコツと積み上げることの意味を知りました。ところがその後、食料産業や、コンサルティングに関わる中で、それだけでは不十分だと思えてきました。改善をすることと改革をすることは全く違うし、改善が得意な人もいれば改革が得意な人もいる。これは思考行動様式の違いなのだと発見して、その研究でしばらく飯を食っていました。１次産業である農家が、道の駅で物を売り、さらにそこで農家レストランをはじめるという話と、牛丼屋が持ち帰り牛丼を売る中で、その牛丼に必要な牛肉とタマネギを農業がつくり出したというのでは、全然違っており成功の確率が違ってきます。今は補助金や助成金が出るので、６次化を先生方も勧めていることと思いますが、６次化産業を始めた事例の１０件のうち８件は尻つぼみで終わっている現状があります。一方でカゴメやオリックスが３＋２＋１で最終的に農業や林業、水産業をはじめた６次化産業のケースは９割が成功しています。つまり零細資本で１次産業からはじめた人と、資本を使って特別損失を出すことを前提に、失敗してもチャレンジする３次産業からはじめるのでは全然違うのです。だとしたら私達はこれからの農業、林業、水産業をどうとらえていくのか。時代は果たしてアグリカルチャーという農業の問題で完結するのか、農業は原材料をつくる段階であるが、最終的にブレインビジネス「脳業」なのではないかと考えます。

普通高校にはない職業高校という形で考えると、教育というのは成績をどう取るかとかという

話ではなくて、どれだけ自信をつけてやるかが重要であると考えます。一方で親のことを考えると実に情けない親が増えています。知育徳育体育　本来であれば学校は知育を扱うはずでした。ところが学校が全てを請け負うことになり、競って比べることが多くなってしまう。さらに大学進学率が 50%を超える世の中になると、大卒はすでに高学歴ではない時代になっている。高校生にとっては大学受験のための勉強。大学生にとっては就活のための勉強となると、限られた学生生活の中で本来学ぶべき学習をやっている時間がない。私は大手企業の就職試験を監修することが有り、エッセイを書く問題を出題したが結局書けない。これは成績主義、競って比べる競争教育の弊害だと感じています。

人生の目的と仕事の目標を一緒にしている人がいるが、人生の目的は抽象概念、仕事の目標は具体的概念です。目的を達成させるのが戦略という概念であり、目標を達成させるのは戦術です。目標というものは目的を分割したもので、例えば富士山の頂上に目的をおいたならば、１合目から９合目まではすべて目標という考えになります。明確に目的を描き、目標に落とし込んだら、目的を意識しなくても１歩１歩目標を到達していくと結果的に目的に到達するということです。だから受験というような目的の見えないものを煽っていくのは如何なものかと思っています。私は幼い頃から人の役に立ちたいと思い、医者になりたいと考え、そのためにはどの大学を卒業し、そのためにはどの高校を卒業し、そのためには中学校でどのくらいの成績でいれば良いのか妄想を抱いておりました。ところが小中学校にはまともに行かせてもらえず、高校までで転校を８回しました。おかげで人生の目的は全く揺るぎませんでした。現在もそれを再構築して生きています。

２０世紀は国益優先の時代で、インターナショナルな国と国との競争の時代でした。現在は人類優先のグローバル時代です。誰かが地球全体にとってマイナスなことをしてしまえば、地球全体が弱ってしまう。そういうことを考えなければいけない時代です。旧態依然の問題もありますが、そういった問題を根本から考え直す必要があると私は思います。一方で、デジタル社会で育った世代の人を育てるのはなかなか難しい現状があります。何でもリセットすればいいと考え、ゼロか百か、好きか嫌いか、右か左かそういった思考に陥りやすい社会で、今の子供達は育っています。ａかｂかと聞かれたとときに、ｃを選択するあるいはその可能性を探る考えがない。これらは全て教員の生き方に関わっています。私たち大人が子供達と面と向かわなければいけないのです。母親は胸で子供を育て、父親は背中で子供を育てる。こういう言い方を昔はしました。２０世紀を引きずったままの農業。国策として輸出作物を作る。６次産業へ向かう。そういった自助を忘れて公助に頼るような農業で良いのでしょうか。共助でやろうとした農協が形骸化している現状です。より高い、原点に立ち返って生徒達を指導していく必要があります。

これからはＡＩも発達し、人の仕事が必要なくなると言われています。そうなれば農業や林業、水産業もすべてが機械の時代になるかもしれない。そういった時代が加速的に進んでいく時代を生きていく子ども達を、どう育てていくのか。なにがあっても臨機応変に対応できる子どもを先生方は育てていかなければいけないのです。当然先生方も臨機応変に生きていかなければならないはずです。

地方創生にも関わっていますが、関われば関わるほど虚しさを感じることがあります。そのと

き限りのイベントが多く、それが日常になっていかない。非日常を作ることはいくらでもできる。けれど援助に頼り自助を忘れた姿が感じられます。

成功とはいったい何なのか。私は自分を成功者だとは思っていませんが、講演先の中高生に「私が成功者だと思う人」と質問すると、多くの生徒が手を挙げます。何故かと問いかけると、「良い車に乗っている」、「高そうな腕時計をしている」という回答です。よく考えると、子ども達が見ているのは「もの」なのです。大人達はその人の経歴などを見て、成功者かどうかを決めますが、成功とは相対的な概念で、絶対的な成功者はいないと思います。成功のポイントは経営力だと思います。お寺では自分経営といいます。経営という概念は英語には表せません。経営とは、仏教用語で「あらかじめ決められた目的目標を、日々の営みを経て達成させること」です。つまり、目的のために自分の生き方と仕事を決めるのが経営であり、それを子供達にしっかり持たせてやることが経営力なのです。

これから時代はどう動くのか、農業技術は進歩したといわれるが、その形態は弥生時代からさほど変化していません。自分の食べる分だけをまかなえば良いのであれば問題ありませんが、インターネットで情報が世界につながる時代に、子供達はそれで満足できるのか、そういった問題が出てきています。今後の大きな流れについては、あらゆる物の生産が、人のいるところで行われるようになります。また、世界が高齢化します。そして技術革新が加速的に進みます。たとえば、現代のスマートフォン一つあれば、アポロ計画で使用したコンピュータの演算能力をカバーできます。しかし最新のスーパーコンピュータでさえも、まだ人間の脳の容量(1ペタ)をはまだ超えていません。ただし、人間はその脳の 3%しか活用できていません。そこに問題がある。これからは AI が発達して人間が機械の手助けをする時代になります。そうした時代を生き抜くために、よく聞くのが「人間にしかできないことを探そう」ということです。人間にしかできないことはあるのでしょうか。

東京ディズニーランドのスタッフマニュアルを作成するときに私が考えたのは、如何にリピーターを増やすかでした。社員にそれを徹底するために、教育について考えました。知育・徳育・体育。頭と心と体にうったえるのが教育ですが、それを効果的にうったえるための３つの順番は人それぞれです。また、どこにうったえればその人に響くかも３つのグループに分けられます。

迷子の子供がいた場合のマニュアルもあります。迷子の子供の 28%は、迷子になったその場に留まらず親を探しにうろつきますが、この子達には新規探索遺伝子があります。つまり改革型です。泣いてその場から動かない子は親が探しやすく便利ですが、改善型遺伝子です。

これからシンギュラリティ（技術的特異点）を迎えますが、今の高校生が最も社会で活躍する 2030 年、社会はどうなっているのか。過去 100 年かけて変化したものが、今では１年で変化する時代だと思ってもいい。アメリカや東南アジアのコメは格段においしくなっている現在、お上の方針に従って、海外に農産物を輸出することで成功している農家がどれほどいるのか？今１個 500 円の桃は 10 年後もその値段で売れているのか？重力制御も 2050 年には可能になると思われます。コメは田んぼで作り、木は山で育てるのは今後も続くのでしょうか？俯瞰的にみると有史以来、初めて体験するものすごいスピードで技術革新は進んでいます。民主主義も限界を迎えているのがアメリカを見ていて分かります。つまり、今の技術を教えてもあっという間に陳腐な物に

なってしまいます。ではどうすればよいのか。それは融通無碍臨機応変に生きるしかありません。子ども達に臨機応変に対応できるようになってもらわなければいけない。それには必要なのは徹底した基礎教育です。英語が話せるようになることは意味がありません。大切なのは話す内容です。素晴らしい話であればどんなになまっていても聞きますし、同時通訳の機械もすぐにできます。

人工知能の発達によって仕事の 40%が無くなり、教科担当の教員も必要なくなるでしょう。介護士も税理士も裁判官も人工知能やロボットに置き換わります。その時代に耐えられる子供は良いですが、できない子は引きこもりで良いのでしょうか。経済とは本来、「国という概念を用いて世を救う。」という意味でしたが、現在はベーシックインカムでお金を国民全員に一律に与え、経済(エコノミー)を回そうとしています。私達も経験していない時代に対応しなければならない子供達に、私達が教えることがあるのか？結局は一緒に学んでいくしかないのです。けれど子供に合わせると言うことではありません。唯一共通しているのは、融通無碍臨機応変に生きることが大切だということです。頭に教える・体に教える・心に教える。この順番を子供の個性や適応力に合わせて自由に変えて教えると言うことしか、教育学者としての私に言えることはありません。ある種、徳育に関しては世界共通ではありません。知育に関しては、今子供達は分からないことがあったらすぐに Wikipedia で調べ、教科書で調べるので覚える必要がありません。ですから大切なのは行間にあることです。私達は断片の知識を詰め込んで、借り物の知識で固めたのでは、臨機応変に対応できないのです。むしろ空っぽのほうが、原始人の方が臨機応変に対応できます。

ＡＩの発達は間違いなく、我々の子供達の仕事を無くしていきます。子供達は、主役の座から機械を補助する脇役に転落する経験をすることになります。そのとき被害者意識でその時代を過ごすのでしょうか？

食べ物に関しても大きく変化していて、その影響は人のあごが細くなるなど体つきにも現れています。極端な話、食べ物はバランスのとれた流動食と、物好きな人が好むノスタルジックな今の食物と２極化していくと思われます。震災復興にしても、手助けしているつもりが、当事者の自助力を奪っていることがあります。何が正しくて何が間違っているのか立ち止まってよく考える必要があります。今の日本は屋根が雨漏りするからといって雨漏りを拾うばかりで、構造体を変えなければ解決しないのに、それをしていない状態であることを認識して欲しいと思います。

最後に、私自身がみなさんと一緒に考えていかなければいけないのが、人生の目的「私たちはどう生きていくのか」、「どんな人間になるのか」を子ども達が、描けるようにしていかなければならないということです。価値観を自分で見極め、作っていくことが必要であると私は考えます。

Ｉ trust him 私は彼を信頼している。Ｉ believe him 私は彼を信用している。また、信頼できる人間として生きていくのか、信用される人間として生きていくのか。信用という定義は世界によって違います、しかし信頼という定義は同じです。言い換えると信用は感情論で信頼は理性である。これはもう一度考えていかなければいけない。

たまたま僕は１５歳で生きようと決めました。科学者、哲学者、経済学者として生きて世界で活躍しようと決めました。そうすると東大からハーバードへと、ところが東大の入試が中止され駄目でした。人生というものは簡単なことで変わってしまう。臨機応変、来る物拒まず、去る者

追わず。つまり私はこっちが駄目ならあっち、あっちがだめならこっち、頼まれたことは断らない、余計なことには手を出さないという人生でした。結果的に周りの人から見ると積極的な人生を送っていると言われます。けれど私ほど消極的な人生を送っている人はいないと思います。今では積極的でもない消極的でもない、ご縁に従って生きていく、妄動的に生きることが良いのかなと思っています。

できれば皆さんと議論したかったのですが、時間となってしまいました。メールアドレスをお知らせしますので質問のある方は４行でご連絡ください。

今日からでも皆さんの人生は変えられます。変わろうと思うのではなく、“今日”変えることが大事です。大風呂敷きを広げて自分をだます。大道理想への道はいつも開けています。素晴らしい子供達を育てることに邁進してください。ありがとうございました。